

安来高校植物図鑑（2020年10月）

和名：ツワブキ（石薺）

葉に「艶(ツヤ)のある薺(フキ)」がなまってツワブキになったのではとされています。フキに似てはいますが、キク科の仲間で、フキとは別種になります。他の花々が咲き終わって冬を迎える前に大きな黄色の花を咲かせるので、「石薺(ツワ)の花」という言葉が初冬の季語になっているそうです。確かに、この時期では一番目立つ花のように思います。若い葉柄(葉を支える柄の部分)は食用になるそうですが、私は食べたことはありません。県西部の津和野町は「ツワブキの生い茂る野」という意味があることを、先日初めて知りました。美しい名前ですね。花はキク科特有の複雑なつくりをしていて、まわりには舌状花が並び、中心部には筒状花が多数集まっています。安来高校では特別教室棟と体育館をつなぐ渡り廊下の横にたくさんの花が咲いています。もうしばらくは咲いているはずなので、通りかかった際には見てみてください。



和名：ウリクサ（瓜草）

果実の形がマクワウリに似ていることからこの名前があります。しかし果実は萼(がく)の中にすっぽりと入っているため、なかなか確認できません。このような形の花を唇形花といいます。以前紹介したトキワハゼと少し似た雰囲気をもっていますが、トキワハゼよりさらに小さく、よく目を凝らして見ないと咲いていることに気付かないかもしれません。盛んに枝分かれをして広がっていきます。やや湿った畑などでよく見られる花ですが、安来高校では、先生方の駐車場付近で、苔のそばにひっそりと咲いています。



和名：ミゾソバ（溝蕎麦）

やや湿り気のある場所に群生することの多い花で、排水のための側溝でよく見かけます。蕎麦の花に似ており、溝に生えていることが多いのでこの名前があるそうです。安来高校でも溝に生えていましたが、群生ではなくポツンと1つだけ咲いていました。枝の先に10~20個程度の小さな花が金平糖のように集まって咲いています。ちなみに、ソバもミゾソバもタデ科の仲間です。

和名: ハナイバナ (葉内花)

花が葉と葉の間から出ることから葉内花と名付けられたそうです。花期は3月～11月と言われており、ほぼ1年中咲いているイメージです。今までに何回も見かけていたのですが、今回やっと見るに堪える程度の写真を撮ることができました。花は2～3mm程度しかない上に、全体的に細くて風に揺れやすいので、なかなか写真におさめることが難しいのです。以前紹介したキュウリグサとよく間違えられますが、キュウリグサは花の中央が黄色いのに対し、ハナイバナは白色なので、判断することができます。ワスレナグサにも似ています。



和名: オニタビラコ (鬼田平子)

小鬼田平子(コオニタビラコ)という近縁種があります。春の七草の「ほとけのぎ」のことです。ややこしい説明になりますが、小鬼田平子はもともと田平子と呼ばれていました。しかし田平子より大きいこの本種が現れ、鬼田平子と名付けられました。鬼田平子より小さい田平子は、小鬼田平子と呼ばれるようになっていきました。理解できましたか？田平子とは田んぼで平たく葉を広げている様子を表したのですが、鬼田平子は田んぼではほとんど見かけません。放置しておくとかかなり背が高くなり、空き地などでは1mぐらいまで成長することもあります。ちなみに、左の写真の個体は15～20cm程度の高さでした。春から秋まで1年中咲いています。



最近、町では外来生物のセイタカアワダチソウが大繁殖しています。他感作用(アレロパシー)というはたらきを持っており、根から他の植物の生育を阻害する物質を分泌するため、あっという間に広がっていくのです。近くで見るときれいな花なのですが、あまりに繁殖能力が高いため、なんとなく敬遠してしまいます。

安来高校のロータリー付近を歩いていたら、分教室さんが育てておられると思われるイチゴの花が咲いていました。早いものは赤い実をつけていました。品種にもよるとは思いますが、本来イチゴは初春から花を咲

かせる植物です。このように春に咲くはずの植物が、秋に咲いていることがよくあります。先日も、春の花であるほとけのぎ(今回紹介した小鬼田平子とは別物)が咲いていました。なぜそうなるのかはわかりませんが、季節を間違えているかのようで、心配になってしまいます。



セイタカアワダチソウ
写真は校外で撮影